

古今当在

企業関係史資料と向き合う

附属史料館は近江商人や近江地域史の教育・研究に資するため膨大な古文書類を収集し、それらを整理して公開することを本務としてきた。現在では一七万六千点の史資料を収蔵し、整理を終えたものから閲覧に供している。それらの多くは、中世から近代にかけての商家や村々の文書であるが、近年は近現代期のもも増えてきた。

その一番の理由は、近現代期の企業や商家経営体の資料を収集し始めたからである。そのきっかけになったのは、二〇〇三年夏に犬上郡豊郷町八目に所在する伊藤忠兵衛記念館敷地の土蔵・物置から膨大な資料群(五万点超)が発見されたことである。これらの資料群は、伊藤家のご好意によって附属史料館に搬入され、整理・目録作成の作業が現在も進められている。伊藤家は、周知のように総合商社伊藤忠商事・丸紅の創業家であることに鑑み、両社が所蔵する史資料も当館に貸与してもらうべく交渉し、二〇一〇年春に両社に伝来する史資料も史料館に搬入され、いず



れも整理・目録作成の作業が進められている。

また、幕末・明治期には伊藤家を凌ぐ巨商であった神崎郡川並村塚本定右衛門家(現ツカモトコーポレーション)の文書群の大部分も二〇一二年にお預かりし、整理・目録作成の準備が進められている。いずれの商家についても創業から現在に至る期間の史資料が残されており、研究史を書き改める成果が期待される。

このような複数の企業史資料を保管する大学は、全国でも本学だけであり、とりわけ伊藤家の文書群は、これまで学界でも未知のものであることから、整理・公開後には画期的な学術研究の成果が期待されるのである。これらの史料群を有益に利用するためには、まずある程度の古文書解読能力を付け、経営学の知識を深めておき、一般公開の日を待っていただきたい。その日は近い。

(特任教授 宇佐美英機)

二〇一六年四月から二〇一六年九月までの史料館の動き

◇五月一六日～六月一日

平成二八年度春季展示

◇整理終了史料
琉球貿易図屏風と琉球使節の「江戸上り」

「たねや近江文庫文書」一六一点、「平林村文書」二八九点

発行 滋賀大学経済学部附属史料館 TEL 0749-27-1104 <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/1>